

2015年度女子学生就職セミナー

女子学生就職セミナー



これから就職活動を開始させる女子学生を対象とし、実際に企業で活躍する本学OGから様々な話を伺って、女子学生のキャリア・就職先を選ぶ際のポイントなどについて考えるきっかけを作る就職セミナー。

今回は、このセミナーにアシスタントとして潜入し、3人のOGの方を交えたワールドカフェ形式の座談会を行い、女性の社会での活躍について話を聞いた。

女子学生就職セミナー 講師

小宮山 由起江 (こみやま・ゆきえ)

- 【1990年】工学部 土木工学科 卒業／清水建設株式会社 入社
- 【1992年】結婚
- 【1998年】第一子（女兒）出産

現在は、土木総本部 土木技術本部 基盤技術部にて総合評価案件の環境全般（主に騒音・振動）に対しての技術提案や、受注後の環境全般にわたる現場対応に従事。高校3年生の娘さんのお母さんでもある。



▲ 小宮山さんは土木工学科初の女子学生。「土木ちゃん」とあだ名を付けられたと語り、笑いを誘いました。現在は一児の母、清水建設では土木総本部土木技術本部基盤技術部の一員として活躍中。

菅谷 真実（すがや・まみ）

- 【1994年】工学部 金属工学科（現・材料工学科）卒業
- 【1994年】JUKI株式会社 入社
- 【1998年】株式会社本田技術研究所に転職／四輪R&Dセンターに配属
- 【2000年】結婚

現在は金属による四輪車シャシー（足回り）部品の軽量化技術研究開発に従事。専門は主にアルミ系の鋳造/接合に関する研究開発。アルミ材料のFSW（摩擦攪拌接合）に関するテーマをメインで行っており、その他機種開発のシャシー材料窓口、部品および部品及び接合技術の将来戦略策定を行っている。



▲ 金属工学科(現・材料工学科)を卒業した菅谷さんは転職経験者。4年間の大学生活と前職で培った知識とスキルを活かして、転職先のホンダではアルミ系材料のスペシャリストとして一目置かれる存在。

塚越 詩織（つかごし・しおり）

- 【2012年】工学部 応用化学科 有機合成化学研究室 卒業
- 【2014年】応用化学専攻 有機合成化学研究室 卒業／雪印メグミルク株式会社 入社

現在入社2年目。

ミルクサイエンス研究所にて、低油分のマーガリンに関する研究に従事している。



▲ 本学の大学院を卒業した塚越さんは、メグミルクに入社して2年目。学生達と年齢が近く、進路選択や働き方の良きアドバイザーに。

インタビュー

小宮山由起江さん

本日はよろしくお願いします。

こんにちは、よろしくおねがいします。

お仕事は大変ですか？

私は本社勤務で、現場で仕事をしていたのは入社1年目の3月から2年目の6月までの話になりますが、やはり、何の仕事もどの仕事も「大変」です（笑）。ここは、この会社はどうだから大変、ではないです。本日一緒にいらしている本田技術研究所の菅谷さん、メグミルクの塚越さんもみんな同様に「大変」なはず。楽な職場、というのはあまりないですね。「私は大変な仕事を任せたい」や、「私はどちらかというと楽な仕事について、定時で帰りたい」という、それぞれご自分の意思の話になってくると思います。しかし、「鉄は熱いうちに打て」という言葉があるように、若いうちは体力があります。私としては、体力的に少々無理がきく、若いうちに「この人からは色々なことを学べる」というような人を見つけて、学んでいくことが大事ですし、そうしていくべきだと思います。結婚、出産はやはり大きな生活のウェイトを占めることになってきて、どうしても勉強の時間が思うように取れない時期になってしまいます。だから、若いうちに色々なことを吸収しておくのがいいと思います。

入社当時は、具体的にはどんな仕事をしていましたか？

入社から8年間は、造成の仕事を担当していました。例えば、山がある場所を切って、谷のところを埋めて、工業団地を作る、というような仕事です。あとは、地盤の改良などもやっていましたね。

現場に出ているって楽しかったですか？

シールドの現場に4ヶ月ほど。ここは、お台場に上水（飲み水）を供給するための現場でした。私の時代は、女性だから現場に出るか、出ないか？というような話になっていました（笑）。私より2年入社が早かった方は、3ヶ月ほど、鉄道を高架にする仕事をしていました。現場の仕事は、土木の人間だけでは仕事できませんでした。土木の人間ができる仕事は全体の3分の1ほどでした。他には、電気、機械の人と一緒に仕事をしました。1つの専攻だけで1つの仕事が成り立っているわけではなく、色々な人たちが協力することによって一つの仕事が成り立っていると感じました。皆さんが学んでいるものは同じではないですが、やはり日本、世界を創っていく上で工学の力とは、すごく重要だなということも感じました。

残業などはありましたか？それは自分の意思でしたか？

私の場合は、働かないと終わりませんでした（笑）入社したての頃は、やはり入社後時間がたっている人に比べたら要領も悪かった部分もあったかもしれません。しかし、それを含めても「残業をやらないと終わらない」程仕事がありました。毎日のように夜10時、今日は早く帰ろう、で夜9時頃、という感じでした。

「女性だから」仕事を任せてもらえない、ということはありませんか？

私の会社は、そのような雰囲気はありませんでした。周りは、せっかく入ったのだから色々なことをやらせよう、と言っていたようです。女性だからこれはやらせない、というような会社ではなかったです。

やはり、学部卒、院卒で仕事の出来映えに差は出てきますか？

仕事の要領に関していえば、学部、院に差は全くないと思います。やはりその人自身の能力や頑張りによると思いますね。社会人と学生の大きな違いは、締め切りで代表されるように、責任の違いにあると思います。社会人は、「いつまでにこの仕事を終わらせなければならない」というものがあります。学生で言えばそれは「何日のいつまでにこのレポートを仕上げ提出しなければいけない」というものになるわけですが、**社会人はその結果にたどり着くまでの個人の仕事にも責任が出てきます。学部卒、院卒で任される仕事にもあまり差がない、ということになります。**

お子さんがいらっしゃると思うのですが、転職の話などが出たことはありますか？

私は一般職なので、転職がありません。私の会社は、一般職なら本社勤務という形になります。私もずっと本社勤務をしています。しかし、先ほどお話ししたとおり、少しの間、研修という形で現場に行ったこともありました。

ありがとうございました。

ありがとうございました！

菅谷真実さん

本日はよろしくお願ひします。

よろしくお願ひします。何でもどうぞ。

仕事と家庭との両立はしやすいですか？

私の会社では、子どもが産まれてしばらくは産休育休として、1時間、2時間早く帰れる制度があります。またそれが（仕事上の）評価にも影響しないことが約束されているので、（自分以外の女性社員で）子どもを育てながら仕事をしている人も沢山います。私の会社は社内結婚が多くて、旦那さんとローテーションを組んで子どもの送り迎えをしていたりとか。私たちの世代では、子どもの面倒は女性がすべて見る、ということが多いですが、皆さんたちの世代のような若い人になると旦那さんと半々で子育てをしている人もいますね。両立はできると思います。

結婚を考えたのは、入社前ですか？入社後ですか？

私の場合は少々特殊で、転職をする前に結婚が決まっていた。会社内の人だと、やはり社内結婚が多いですね。あと学生時代に付き合っていた人と結婚する人も多いです。人によりけりですが、学生時代の恋人と結婚して、新幹線で通勤している人も自分の部署にいます。

たとえば最近の話になりますが、大学院を出た人なんかは、入社前から結婚を決めている人もいますね。男性が4年生大学卒、女性が大学院卒で入社後に結婚した人たちも知っています。

海外出張が多いと聞きましたが、その際はどのようにしていますか？

私は割と英語がさっぱりなので（笑）海外出張の時には、現地の駐在員の人についてきてもらって外の会社の方と打ち合わせをしたりしています。最近の新卒の人たちには、英語ができる人が多いですね。

海外出張ですが、頻度はどのくらいですか？

多いときは多くなって、少ないときは少なくなります。多いときなら年に2~3回、少ないときであれば年に1度もない、ということもありますね。私の場合は、そんな頻度で15年間に7回、海外出張がありました。期間は人によると思いますが、私の場合は5日~2週間でしたね。

自分の後輩で、こんな人に入ってきて欲しい！というのがありますか？

入ってきてくださるなら誰でも、という感じなのですが（笑）やはり自分が女性なので、女性の後輩が入ってきてくれるのは嬉しいですね。こんなタイプが活躍する！というの、職場にもよりますし、一概には言えないと思います。私の会社では、押しの強い人が多いです。押しの強い人は会議などでも活躍していますね。私は、20年間如何に自分の女性性を消すか、というところに重きを置いてしまったので（笑）女の子は女の子らしく生きて欲しいです。

やはり、女性では昇進しづらい、というものはあるのですか？

今はほとんどなくなったと思います。昔は子どもを産んだら昇進できない、なんてものがあつたりもしましたが。今の時代は全くなくなっているといつていいと思います。事実、子どもを産んでいる人でも、係長クラスの人はいくらもいますね。制度として昔からそういうものがあつたわけではないので、会社が変わった、というより、人の女性に対する意識が変わった、ということなのだと思います。

会社で求められている人材、というのは実際のところどんなものなのですか？

やはり職場によって違うものだからね、世の中ではいろいろと言われてはいますが、あまり気にしなくてもいいものなのだと思います。最低限さえできていれば。もちろん、初対面の上司に、いきなりため口で話したりするのはよくないですよ（笑）

院生、学部生だと、割合はどのくらいですか？

私の会社は、院生が多いですね。最近、院卒だと少しリスクが高いから欲しくない、という会社も多いと聞きますが、それでも院卒が半分以上かな、とは思いますが。ただ、それだけではなくて、4年制大学を出ていない人たちも沢山いますね。どの大学を出ているから、というところで部署が決まったりはしていません。

ありがとうございました。

ありがとうございました！

塚越詩織さん

本日はよろしくお願ひします。

お願いします（笑）塚越と申します。

学部卒、院卒で大きな違いがあるな、と感じたことはありますか？

そうですね、やはり研究職となるとどうしても差が出てくるというのが正直なところだと思います。会社側も学部を採用している、とは言っていますが、学部生の割合は1割、2割だったりします。そのような点を見ると、どうしても差が出てくるな、というのが正直なところですね。ただ、学部卒が不利なわけではなく、たとえば学部卒で研究職に就ける人もいます。なので、その点であきらめる必要はないと思いますね。

大学院に入ったきっかけは？

研究職に就きたい、もっと勉強したいという理由からです。

研究職での研究内容というのは、どのように決まるものですか？

会社の方針で決まる、という部分が大きいです。他の乳製品を扱っている会社に、追いつけ、追い越せで色々な内容を研究しています。「このような商品を出すから、ここまでに、この技術を確立させてくれ」などの指示がある研究もありますし、自分で「このような仕事がやりたいから」で研究をすることもあります。この二つの中で緊急度が高いのはやはり、前者の発売が決まっているものになってきますね。

研究職といっても、様々な業界があると思うのですが、なぜ食品業界に入ったのですか？

たまたまそこに受かったから、というのが一番大きいです（笑）幅広くいろいろな視点で考えていましたが、実際に決まったのはここになりました。やはり就活の時は、最初から広い目で大きく物事をみて希望を出す、というのが就活をする上で大事だと思いました。

就活の時の自己PRでは、どんな話をされたのですか？

私は本当に話せることがなくて（笑）「バイトがんばった」ぐらいしかなかったですね。研究職で関東圏で働きたかったのですが、大きな会社になればなるほど全国に支部がありますし、どこに飛ばされるかは正直わからなかったです。ドキドキでした。私の場合は、結果的に埼玉で研究職ができていたので、運がよかったと言えます。院卒ですが、就活の面接で、あまり研究のことについて話した記憶はありませんでした。そのような点では、学部生も平等に見られていると思います。

会社での出会いとかはあるのですか？

いい先輩はだいたい結婚してるように見えます（笑）やっぱりそれなりの理由があってご結婚されているんだな、というのは感じます。研究職に限ってかもしれないですが、結構早いです、皆さん。若い人たちですが、既婚者が多いです。

社内での出会いはあまり期待できない雰囲気ですか？

あまり関係持ちたくないですね、仕事上（笑）。でも、社内婚は結構多いような気がします。この間も、一つ上の先輩が社内婚でご結婚されました。社内婚をしても、淘汰される環境ではないですね。

結婚についてはどう思いますか？

私は、できれば結婚後も仕事は続けた方がいいと思います。自分が働けばその分裕福な暮らしができる訳ですし、それなら働いた方がいいかな、と思います。また、人によりまずけど、家にいたら駄目になるかな、とも思うので。外に働きに出るからこそ、人の目を気にできたり、それなりに自分に気を配ることもできますが、家にいたらそれも終わってしまうような気がするので、私は、できる限り仕事は続けていきたいな、と思っています。

ありがとうございました。

ありがとうございました。そんなに就活は気負う必要はないと思います。自然体でやればいいと思うし、受かるところには本当に拾ってもらえるし、同じようになっても受からないところも沢山あったりして、ショックかもしれないですが、出来るだけ気負わずに、縁がなかった、と思えることも大事だと思います。

インタビューー

KA：システム理工学部 生命科学科 4年／FM芝屋アナウンサー

HA：工学部 建築学科 3年／FM芝屋アナウンサー

MA：工学部 情報工学科 2年／FM芝屋アナウンサー

IN：工学部 材料工学科 2年／FM芝屋オペレーター

撮影・編集スタッフ

UC：工学部 機械機能工学科 3年／FM芝屋ディレクター

NI：工学部 情報工学科 3年／FM芝屋オペレーター

お問い合わせ先

芝浦工業大学
男女共同参画
推進室

〒337-8570 埼玉県さいたま市見沼区深作307（大宮キャンパス）

E-mail:desk-gequality@ow.shibaura-it.ac.jp